

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
やまと文範 浄瑠璃全書	第一集 仮名手本忠臣蔵	小野田孝吾／編纂	丸屋善七	明治14年4月 ※大序 鶴ヶ岡の段・第二 桃井館の段・第三 恋歌の段・第四 塩冶館の段・第五 鉄炮場・第六 勘平腹切の段・第七 茶屋場・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科の段・第十 天河屋の段・第十一 夜討の段
	絵入倭文範 第二集 仮名手本忠臣蔵	内藤加我／編輯	金桜堂	明治16年2月 ※山科の段
名作三十六佳撰	仮名手本忠臣蔵	内藤加我／編輯	金桜堂	明治24年3月 ※大序 鶴が岡の段・第二 桃井館の段・第三 恋歌の段・第四 塩冶館の段・第五 鉄炮場・第六 勘平腹切の段・第七 茶屋場・第九 山科の段・第十 天河屋の段・第十一 夜討の段
	新註戯曲 仮名手本忠臣蔵	春雨亭主人／註	金港堂	明治24年12月 ※第一段 鶴岡・第二段 桃井館・第三段 殿中・第四段 判官切腹・第五段 山崎街道・第六段 勘平住家・第七段 祇園一力・第八段 道行旅路の嫁入・第九段 山科閑居・第十段 天河屋・第十一段 討入 ※解題、頭注を付す。
東洋文芸全書	第20編 義太夫文粹 上	蜃気楼主人／編 野口竹次郎／編輯	博文館	明治26年4月 ※第七 茶屋場 ※頭注を付す。
	百参拾段集 前編 仮名手本忠臣蔵		不明	明治27年6月序 ※山科の段（九段目）・六段目・セツ目
帝国文庫	第三十八編 校訂 忠臣蔵浄瑠璃集 仮名手本忠臣蔵	幸堂得知／校訂 博文館編輯局／編輯	博文館	明治29年2月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※「碁盤太平記」「忠臣金短冊」「難波丸金鶏」「いろは歌義臣鑿」「太平記忠臣講釈」「躰方武士鑑」「いろは蔵三組盃」「忠臣伊呂波実記」「廓景色雪の茶会」「忠義墳盟約大石」「忠臣一力祇園曙」「忠臣後日晰」併載。
	義太夫百番 上巻 仮名手本忠臣蔵	水谷不倒／校訂	博文館	明治32年2月 ※大尽の鑄刀 ※解題を付す。
	義太夫百番 下巻 仮名手本忠臣蔵	水谷不倒／校訂	博文館	明治32年2月 ※桃の井館の段・山科の段

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
	義太夫百段集 仮名手本忠臣蔵	鈴木与八／編輯	聚栄堂大川屋書店	明治34年10月 ※桃井館の段・山科の段・旅路の嫁入
	浄瑠璃名作集 上 仮名手本忠臣蔵	竹中清助／編纂	加島屋竹中書店	明治38年9月 ※三ツ目・五ツ目・六ツ目・七ツ目・山科の段
	浄瑠璃名作集 下 忠臣蔵四段目	竹中清助／編纂	加島屋竹中書店	明治38年9月 ※四段目 塩谷館の段
国民文庫	出雲戯曲集 全 仮名手本忠臣蔵	国民文庫刊行会／編輯	国民文庫刊行会	明治43年8月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一
浄瑠璃丸本全書	仮名手本忠臣蔵	中川清次郎	中川玉成堂	明治43年10月 ※大序 鶴が岡の段・第二 桃井館の段・第三 恋歌の意趣・第四 塩治館の段・第五 鉄炮場・第六 勘平腹切の段・第七 茶屋場・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科の段・第十 天河屋の段・第十一 夜討の段
	古今四十七大家評註 仮名手本忠臣蔵	南茂樹／編	朝野書店	明治44年1月 ※大序 鶴が岡の段・第二 若狭之助館の段・第三 殿中の段・第四 判官切腹の段・第五 山崎街道の段・第六 勘平切腹の段・第七 一力揚（ママ）屋の段・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科閑居の段・第十 天川屋内の段・第十一 討入の段 ※頭注、四十七人の文人による評、総評を付す。坪内雄蔵「忠臣蔵」の劇としての価値」ほか。
	義太夫二百段集 上 仮名手本忠臣蔵		聚栄堂大川屋書店	明治45年5月 ※桃井館の段・山科の段・旅路の嫁入
文芸叢書	第一冊 忠臣蔵文庫 仮名手本忠臣蔵	饗庭篁村／校訂・編	博文館	明治45年7月 ※第一 鶴ヶ岡の段・第二 桃井館の段・第三 喧嘩場の段・第四 判官切腹の段・第五 二つ玉の場・第六 勘平内の段・第七 茶屋場の段・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科の段・第十 天河屋の段・第十一 討入の段 ※解題（饗庭篁村）を付す。 ※「いろは文庫」「忠臣水滸伝」「四十七刻忠筋計」併載。
有朋堂文庫	海音半二出雲宗輔傑作集 全 仮名手本忠臣蔵	忠見慶造／校訂 塚本哲三／編輯	有朋堂書店	大正3年8月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※頭注、語句索引を付す。

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
世界名著叢書	第十四巻 浄瑠璃物語 仮名手本忠臣蔵	成光館編集部／編 笹川臨風／監修	成光館出版部	大正5年12月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第九・第十・第十一 ※総説（小山龍之輔）、解題、梗概を付す。
俗曲文庫	第五編 義太夫集 中巻 仮名手本忠臣蔵	海賀変哲／編	博文館	大正6年4月 ※山科の段 ※字句略解を付す。
俗曲文庫	第七編 義太夫集 下巻 仮名手本忠臣蔵	海賀変哲／編	博文館	大正6年7月 ※恋歌の意趣・塩谷館の段・財布の連判・大尽の錆刀・天河屋の段 ※字句略解を付す。
袖珍文庫	第八十一編 浄瑠璃傑作集 全 仮名手本忠臣蔵		集文館	大正6年7月 ※大尽の錆刀の段
	浄瑠璃名作集 仮名手本忠臣蔵	義太夫同好会	益井文英堂	大正13年 ※山科の段
院本正本日本戯曲名作大系	第二巻 仮名手本忠臣蔵	三島才二／校訂・編纂	聚芳閣	大正14年8月 ※大序・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解説（三島才二）を付す。 ※正本も併載。
近代日本文学大系	第八巻 名作浄瑠璃集 上 仮名手本忠臣蔵	笹川種郎／校訂・編	国民図書	昭和2年4月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解題（笹川種郎）を付す。
新型名著文庫	戯曲 義士篇 後篇 仮名手本忠臣蔵	高野辰之／校訂	富山房	昭和2年6月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入り・第九・第十・第十一 ※解説、注釈、初演の役割番付（影印）を付す。 ※「太平記忠臣講釈」併載。
日本音曲全集	義太夫全集 中巻 仮名手本忠臣蔵	中内蝶二・田村西男／編輯	日本音曲全集刊行会	昭和2年10月 ※山科の段 ※頭注、解説を付す。
日本音曲全集	義太夫全集 下巻 仮名手本忠臣蔵	中内蝶二・田村西男／編輯	日本音曲全集刊行会	昭和3年4月 ※恋歌の意趣の段・塩谷館の段・勘平切腹の段・一力茶屋場の段・天河屋の段 ※頭注、解説を付す。

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
義太夫名作浄瑠璃註釈	第一巻 仮名手本忠臣蔵	吉村重徳／校註	大同館書店	昭和4年1月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※頭注を付す。
				昭和13年1月 ※解説、頭注（吉村重徳）を付す。
日本名著全集 江戸文芸之部	第七巻 浄瑠璃名作集 下 仮名手本忠臣蔵	黒木勘蔵／校訂	日本名著全集刊行会	昭和4年2月 ※大序・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入り・第九・第十・第十一 ※解題（黒木勘蔵）を付す。 ※初演の役割番付（影印）を付録。
帝国文庫	第十一篇 忠臣蔵浄瑠璃集 全 仮名手本忠臣蔵	小沢愛罔／校訂 博文館／編纂	博文館	昭和4年3月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解題（小沢愛罔）を付す。 ※「碁盤太平記」「鬼鹿毛無佐志鑑」「忠臣金短冊」「難波丸金鷄」「いろは歌義臣鑿」「太平記忠臣講釈」「忠臣後日晰」「騷方武士鑑」「いろは蔵三組盃」「忠臣伊呂波実記」「廓景色雪の茶会」「忠義墳盟約大石」「忠臣一力祇園曙」併載。
評釈江戸文芸叢書	第四巻 傑作浄瑠璃集 隆盛時代 仮名手本忠臣蔵	樋口慶千代／編	大日本雄弁会講談社	昭和10年12月 ※第一（大序・兜改め）・第二（松切り）・第三（刃傷の場）・第四（半顔切腹・城明渡し）・第五（山崎街道・二つ玉）・第六（お軽身売・勘平自害）・第七（一力茶屋の場）・第八（道行旅路の嫁入）・第九（山科閑居の場）・第十（天河屋の場）・第十一（討入） ※解題、実説、梗概、頭注、追考（語句詳解）を付す。
岩波文庫	仮名手本忠臣蔵	守随憲治／校訂	岩波書店	昭和12年9月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解説（守随憲治）を付す。 ※初演の役割番付、「古今いろは評林」を付録。

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
近世日本戯曲叢書	仮名手本忠臣蔵	河竹登志夫／監修 藤野義雄／評註	碩学書房	昭和26年1月 ※第一 鶴岡の饗応（兜改め）・第二 諫言の寝刃・第三 恋歌の意趣・第四 来世の忠義・第五 恩愛の二玉・第六 財布の連判・第七 大臣の鑄刀・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科の雪転・第十 発足の櫛笄・第十一 合印の忍兜 ※解説、解題、頭注と、図版解説（尾崎久弥）を付す。 ※「忠臣蔵」について」（河竹繁俊）併載。
評解近世戯曲名作選書	一 仮名手本忠臣蔵	河竹登志夫／監修 藤野義雄／評註	碩学書房	昭和28年1月 ※再刊
邦楽名曲選	第三巻 義太夫 上 仮名手本忠臣蔵	安藤鶴夫／編	創元社	昭和29年3月 ※判官切腹の段・勤平切腹の段・一力茶屋の段・山科閑居の段。 ※解説（安藤鶴夫）を付す。
日本古典全書	第七十七回 竹田出雲集 仮名手本忠臣蔵	鶴見誠／校註	朝日新聞社	昭和31年11月 ※鶴が岡兜改めの段・第二 桃井館松切りの段・第三 殿中刃傷の段・第四 扇が谷判官切腹の段・第五 山崎街道二つ玉の段・第六 勤平切腹の段・第七 一力茶屋の段・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科閑居の段・第十 天河屋の段・第十一 討入の段 ※頭注、解説、初演の役割番付を付す。
日本古典鑑賞講座	第二十一巻 浄瑠璃・歌舞伎 浄瑠璃 仮名手本忠臣蔵	高野正巳・河竹繁俊／編	角川書店	昭和33年2月 ※五段目・六段目 ※解題、梗概、脚注、現代語訳（高野正巳）を付す。 ※「浄瑠璃と歌舞伎」（内海繁太郎）、「狂言綺言」（戸板康二）、参考文献一覧（大村弘毅）あり。
日本古典文学大系	第五十一巻 浄瑠璃集 上 仮名手本忠臣蔵	乙葉弘／校注	岩波書店	昭和35年6月 ※大序・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解説、頭注、補注、初演の役割番付を付す。
	能・浄瑠璃・歌舞伎 仮名手本忠臣蔵	山本二郎・徳江元正／編	桜楓社	昭和42年5月 ※第六 ※解説・頭注を付す。 ※『難波土産』『役者論語』を併載。
	増訂 能・浄瑠璃・歌舞伎 仮名手本忠臣蔵	山本二郎・徳江元正／編	桜楓社	昭和49年10年

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
	増訂 能・浄瑠璃・歌舞伎 仮名手本忠臣蔵	山本二郎・徳江元正／編	桜楓社	昭和51年10月 ※増補改訂版
	仮名手本忠臣蔵	守随憲治・山本二郎／編	桜楓社	昭和43年5月 ※第一 鶴ヶ岡の段・第二 桃井館の段・第三 鎌倉御所の段・第四 扇が谷上屋敷の段・第五 山崎街道の段・第六 勘平住家の段・第七 一力の段・第八 道行・第九 山科閑居の段・第十 天河屋の段・第十一 勢揃より引上の段 ※全て院本の影印。 ※解説、梗概、頭注を付す。
	校註 仮名手本忠臣蔵	土田衛・白方勝	笠間書院	昭和46年4月 ※第一・第二・第三・第四・第五・第六・第七・第八 道行旅路の嫁入・第九・第十・第十一 ※解説・頭注・後注を付す。 ※初演の役割番付（翻刻と影印）、登場人物・実名対照表を付録。
	仮名手本忠臣蔵 解釈と研究（上）	藤野義雄／著	桜楓社	昭和49年11月 ※第一 鶴ヶ岡の段・第二 桃井館の段・第三 鎌倉御所の段 ※解題、注釈、通釈、研究を付す。
	仮名手本忠臣蔵 解釈と研究（中）	藤野義雄／著	桜楓社	昭和50年2月 ※第四 扇が谷上屋敷の段・第五 山崎街道の段・第六 勘平住家の段・第七 一力の段 ※注釈、通釈、研究を付す。
	仮名手本忠臣蔵 解釈と研究（下）	藤野義雄／著	桜楓社	昭和50年4月 ※第八 道行旅路の嫁入・第九 山科閑居の段・第十 天河屋の段・第十一 勢揃より引上の段 ※各段に注釈、通釈、研究を付す。 ※参考文献一覧あり。
新潮日本古典集成	第七十回 浄瑠璃集 仮名手本忠臣蔵	土田衛／校注	新潮社	昭和60年7月 ※第一 鶴岡の饗応（兜改め）・第二 諫言の寝刃（松伐り）・第三 恋歌の意趣（館騒動）・第四 来世の忠義（判官切腹）・第五 恩愛の二つ玉（山崎街道）・第六 財布の連判（与市兵衛住家）・第七 大臣の鑄刀（一力茶屋）・第八 道行旅路の嫁入・第九 山科の雪転（山科閑居）・第十 発足の櫛笄（天河屋）・第十一 合印の忍兜（討入） ※頭注、口語訳の傍注、解説（土田衛）、初演の役割番付（影印）を付す。

全集・叢書名	巻名・書名	編者・校訂者	発行所	備考
新編日本古典文学全集	七十七 浄瑠璃集	長友千代治／校注・訳 鳥越文蔵・長友千代治・大橋正 淑・黒石陽子・林久美子・井上 勝志／校注・訳	小学館	平成14年10月 ※第一 鶴岡の饗応（兜改め）・第二 諛言の 寝刃（松伐り）・第三 恋歌の意趣（館騒 動）・第四 来世の忠義（判官切腹）・第五 恩愛の二つ玉（山崎街道）・第六 財布の連判 （与市兵衛住家）・第七 大臣の鑄刀（一力茶 屋）・第八 道行旅路の嫁入り・第九 山科の 雪転（山科閑居）・第十 発足の櫛笄（天河 屋）・第十一 合印の忍兜（討入） ※梗概、頭注、口語訳、解説（長友千代治） を付す。
	義太夫五百段全集 春の巻		不明	発行年月不明 ※九段目 山科の段・十段目 天川屋の段・十 一段目 夜討の段・二段目 桃の井館段 ※寺岡切腹の段・孝行酒屋の段を併載。
	義太夫五百段全集 夏の巻		不明	発行年月不明 ※七ツ目・五段目・四段目 ※大詰焼香の段を併載。
	義太夫五百段全集 秋の巻		不明	発行年月不明 ※六ツ目 勘平切腹の段・三ツ目 恋歌の意趣 ※本蔵下屋舗の段・喜内作家の段・宅兵衛上 使の段を併載。